忌七

三回

===

日忌

九八六五四三二一

忌回·

会日日七月

西馬山山田西松甲石古高蘇

忌座七忌納忌七回回 骨・日忌忌

納忌骨 九八

崇ツマ雄則 様子工様様初様様 十回回・三忌り忌 三忌忌七回

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き仏事はお 受けできません。ご協力をお願い します。

> 5月 16日~17日(終日)

> 6月 2日(終日) 10日~11日(終日)

> 28日~29日(終日)

4月、次の金光寺門信徒の方がご

綾 カズ子 様

4月25日満98歳

1日/30日

0日/30日

田友

謹んでお悔やみ申し上げます。 2023年 4月 9日満89歳

鞍岡の4月の天候 (アメダス)

最低気温・ 0.5℃(9日)

最高気温・27.7℃(18日)

往生なさいました。

2023年

日 数・

真夏日日数·

第262号 宫崎県西臼杵郡 五ヶ瀬町大字鞍岡

5927番地

83 - 2338

5 0 9 8 2

▲ ひっそり 紫蘭の花

(5月5日撮影 当山)

今月のことば 法語カレンダー 言葉となった 仏なのです 南垂阿弥陀仏とは 安富信哉

慧 光

阿弥陀如来とは、南無阿弥陀仏という言葉 慧に導かれて生きる身となるのです。 になって私たちに至り届く仏さまです。阿弥 陀如来が言葉となって私たちに至る姿である 南無阿弥陀仏を、お名号と呼んでいます。水 つくことができません。私たちがそうした重 と氷とが、すがたの違いであって同じもので あるのと同様に、阿弥陀如来とお名号・南無 如来はお名号となって、私たち一人ひとりの 阿弥陀仏も二つに分けることができないものもとに赴かざるを得ないのであり、私たちに です。

阿弥陀如来は、自分中心の心に振り回されのです。 る「煩悩病」を患う私たちに、南無阿弥陀仏 を処方してお救いくださいます。お名号は、 阿弥陀如来から私たちに対する「煩悩病を必ず。それは、阿弥陀如来によって明らかにさ ず治す。いのちの行く末、私にまかせよ」と いう喚び声です。その切なる勧めが私たちのまに知らされることであり、阿弥陀如来の確 心に至り届いたとき、私たちは阿弥陀如来のかな導きのなかで、お念仏申す生活が続くと 慈悲の力で、やがて必ずお浄土に往き生まれ いうことです。 て仏に成る(煩悩病の治癒)身になります。 そのことをよろこび、念仏を申しつつその智

私たちは阿弥陀如来の教えに出遇わなけれ ば、自らが「煩悩病」であることにさえ気が い「煩悩病」の患者であるからこそ、阿弥陀 寄り添い続けるよりほか、救う手立てがない

南無阿弥陀仏は、私たちの心に届いて信心 となり、念仏となって口に現れてくださいま れた私たちの「煩悩病」のすがたをありのま

> (本願寺出版社刊「大乗」誌掲載 『月々のことば』より抜粋 転載)

一日最大雨量·34.5 mm (15日) ホームページ開いています。 https://konkouji.jp/ 5月5日現在アクセス数 142,277人

月間総雨量·191.5mm(降雨日数·11日)

ト不意いれ重増つキ出り当にい報腹でんてもがごり今減とど下しう腹とで ホ断でにてにえかロし、然、ま告囲きにい手二飯も、ら質うがたと囲言「昨 ホなのしいしのの減てお、以すしをれ報るでキので実し問しり。保をわも年 !自減てるま繰間っし下お前▼た三ば告気つ口量き践ますたをお健 分量しのいり、たまが供よそいセ体しがま弱もるししるらい寺師セ (にとまでに返次とうりえりんとン重なしん減減だてょといたでさン体ぐ月住が思いけばしの事のに生活も思う事故しん減減だてょといたでさン体ぐ月 が思いははしの喜のに物はな思チをけまだりらけいう `いだ¬んチ車メ上 っいまとこ。日んでつも仏思い減六れす感まし手ま」っていおか減を夕旬 `いた参い `ら+ば °じしたをすとごして供らら `固計重な一る重いさ増は張て口ら健は °でけおわのうま物わま五す康 郎す優いの計いキのが手んえ裏っか代ず師減腹体ず下れ量かすのれしたよ診 °おまょ∪ー断 '柔決せ壊体ロもーをあ、腹てらに、さっ囲重、が、をし

